

執筆者一覧（掲載順）

指宿 信（当センター長・成城大学法学部教授）

菅原 直美（弁護士・多摩の森綜合法律事務所）

森村 たまき（国士舘大学法学部非常勤講師）

編集後記

治療的司法ジャーナル2号を発刊することができた。本号には、海外視察報告と翻訳の二つの原稿が寄せられた。センター客員研究員であり弁護士の菅原直美氏による報告「現行制度のまま実現可能な『日本版ドラッグ・コート』」は、アメリカ・ハワイ州とオーストラリア・シドニーにおけるドラッグ・コート視察に基づく。同報告は、両法域におけるドラッグ・コートの運用を踏まえると、日本においても、裁判所が主導する制度を利活用することで、法改正なくドラッグ・コートを実践できることを主張する。また、弁護士の立場から、実践例を具体的に提示する。とりわけ薬物事犯の弁護を行う弁護士たちにぜひ読んでもらいたい。

同じくセンター客員研究員である森村たまき氏による翻訳は、“TJ”を提唱したウェクスラー教授の論稿を邦訳したものである。問題解決型裁判所の増加したアメリカにおいて新たに生じた問題について、刑事手続の各段階に応じて分析し、TJをより効果的に裁判実務に取り入れるための方策を提案する。特に、出口支援やダイヴァージョンとの関係で、いかにすればTJ専門職の実務・技術を刑事手続で活用できるかという視点は、日本におけるTJの実践を志向するうえで極めて示唆に富む。

次号も、投稿論文を引き続き募集する。本号掲載の論文執筆要綱や論文提出時に必要な所定の用紙は、当センターウェブサイトに掲載予定であるので、こちらを確認していただきたい。日本における治療的司法の議論を活発にするためにも、多様な論文投稿を期待する。（編集委員会）

2019年3月15日発行

治療的司法ジャーナル第2号

ISSN 2433-9229

編集・発行 治療的司法ジャーナル編集委員会
〒157-8511

東京都世田谷区成城6-1-20

成城大学研究機構事務室内 治療的司法研究センター

JST科学技術振興機構社会技術研究開発センター（RISTEX）「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築」研究開発領域 採択プロジェクト「多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワーク（ATAnet）の構築」研究代表者・石塚伸一

※お問い合わせは、下記URLまで

(<https://www.iqform.jp/seijogakuen/pc/enquete/rctj/>)